

スタディ・スキルズ

科目責任者 矢澤卓也
学年・学期 1学年・1学期

一
学
年

I. 前 文

大学で主体的・積極的に学ぶために必要な技法（アカデミックスキル）について学修する。ノートの取り方やテキストの読み方，図書館の利用方法や情報の収集方法，文章表現に関する学術的表現の基礎的知識を学び，実践力を修得する。また，思考の法則，思考のつながり，推論の仕方や論証のつながりを学び，論理的に考えて話す，記述する方法を学修する。

II. 担当教員

教 授	矢澤卓也（病理学）
教 授	増田道明（微生物学）
教 授	小西美樹（小児看護学）
教 授	西連地利己（看護医科学（基礎））
特任教授	内田幸介（看護医科学（基礎））
准教授	小嶋英史（先端医科学研究センター）
准教授	馬籠信之（基盤教育部門）
准教授	阿部 涉（基盤教育部門）
准教授	村山晴夫（健康スポーツ科学）
准教授	石川純子（精神看護学）
准教授	須坂洋子（成人看護学（慢性期））
学内准教授	山下真幸（情報基盤センター）
学内准教授	奥田竜也（基盤教育部門）
講 師	松岡佐知（国際交流支援室）
講 師	矢澤華子（病理学）
講 師	能登慶和（語学・人文教育部門）
講 師	梅澤規子（基盤教育部門）
講 師	川瀬 撰（基盤教育部門）
講 師	野畑友恵（基盤教育部門）
講 師	林 幸子（成人看護学（急性期））
学内講師	金子 堅太郎（教育支援センター）
学内講師	小笠原 健（基盤教育部門）
学内講師	枝 伸彦（健康スポーツ科学）
学内講師	石川知弘（微生物学）
学内講師	布矢純一（微生物学）
助 教	早川晃一（研究連携・支援センター）
助 教	柏木維人（病理学）
助 教	石井 順（病理学）
助 教	東 覚（分子生物学）
助 教	福島央之（生理学）
助 教	佐藤元康（生化学）
助 教	佐藤洋隆（微生物学）
助 教	阿部美子（公衆衛生学）

助 教 渡 邊 珠 帆 (母性看護学)
 学内助教 森 田 亜州華 (薬理学)
 外部講師

Ⅲ. 一般学習目標

主体的、積極的に学ぶために必要な技法について理解する。

Ⅳ. 学修の到達目標

1. 学問の重要性を理解し、獨協医科大学医学部で学ぶことの意味を理解できる。
2. 大学生としてのアカデミックスキルの基本とキャンパスマナーを実践できる。

Ⅴ. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	10	月	1	[講義・演習]ガイダンス	小西美樹 西連地純子 石川坂洋子 須林幸帆 林邊珠卓 渡澤	1,2,3,5
2		10	月	2	[講義・演習]ガイダンス	小西美樹 西連地純子 石川坂洋子 須林幸帆 林邊珠卓 渡澤	1,2,3,5
3		10	月	3	[講義・演習]ガイダンス	小西美樹 西連地純子 石川坂洋子 須林幸帆 林邊珠卓 渡澤	1,2,3,5
4		11	火	1	[演習]コミュニケーションスキル	石川純子 須林幸帆 林邊珠卓 渡澤西連地 小西美樹	1,2,3,5
5		11	火	2	[演習]コミュニケーションスキル	石川純子 須林幸帆 林邊珠卓 渡澤西連地 小西美樹	1,2,3,5
6		11	火	3	[演習]医療現場の接遇	外 部 講 師	2

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
7	4	12	水	1	[講義・演習]キャンパスマナー	小西美樹 西連地子 地川純子 川坂洋幸 坂邊幸珠 須林渡	1,2,3,5
8		12	水	2	[講義・演習]キャンパスマナー	小西美樹 西連地子 地川純子 川坂洋幸 坂邊幸珠 須林渡	1,2,3,5
9		12	水	3	[講義・演習]獨協学園の歴史	内田幸介	1,2,3,5
10		17	月	1	[講義・演習]情報収集・整理の技術	小西美樹 西連地子 地川純子 川坂洋幸 坂邊幸珠 須林渡	1,2,3,5
11		17	月	2	[講義・演習]情報収集・整理の技術	小西美樹 西連地子 地川純子 川坂洋幸 坂邊幸珠 須林渡	1,2,3,5
12		17	月	3	[講義]レポートの書き方	小西美樹 西連地子 地川純子 川坂洋幸 坂邊幸珠 須林渡	1
13		24	月	1	[講義]プレゼンテーションのしかた	小西美樹 西連地子 地川純子 川坂洋幸 坂邊幸珠 須林渡	1
14		24	月	2	[講義]プレゼンテーションのしかた ディスカッションのしかた	小西美樹 西連地子 地川純子 川坂洋幸 坂邊幸珠 須林渡	1
15		24	月	3	[講義]ディスカッションのしかた	小西美樹 西連地子 地川純子 川坂洋幸 坂邊幸珠 須林渡	1
16	5	1	月	6-7	[演習]レポート演習<ゼミ> 16:20-17:50	医学部教員 看護学部教員 矢澤卓美 小西美樹	1,2,3,5
17		9	火	6-7	[演習]プレゼンテーション演習<ゼミ> 16:20-17:50	医学部教員 看護学部教員 矢澤卓美 小西美樹	1,2,3,5

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
18	5	16	火	6-7	[演習]ディスカッション演習<ゼミ> 16:20 - 17:50	医 学 部 教 員 看 護 学 部 教 員 矢 澤 卓 也 小 西 美 樹	1,2,3,5

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

成果物での評価40%（レポート，プレゼンテーション資料，議事録），ゼミ演習の参加度30%，リフレクション（本日の講義を踏まえて考えたことや新たな疑問を記述したもの）のLMSによる提出30%とする。

VII. 教科書・参考書・AV資料

- 1) 名古屋大学高等教育研究センター，ティップス先生からの7つの提案 学生編 (<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/student/indeX.html>)
- 2) 小野田博一. 13歳からの論理ノート「考える」ための55のレッスン. PHP研究所.
- 3) 世界思想社編集部. 大学生 学びのハンドブック 5訂版. 世界思想社.
- 4) 佐藤 望, 他. アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門. 第3版. 慶應義塾大学出版会.
- 5) 向後千春. 18歳からの「大人の学び」基礎講座. 北大路書房.
- 6) 鈴木克明, 美馬のゆり. 学習設計マニュアル「大人」になるためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房.

VIII. 質問への対応方法

随時，質問を受ける。授業に関する内容については，クラス全体にフィードバックする。

矢澤卓也：tkyazawa@dokkyomed.ac.jp オフィスアワー 水曜12:00～13:00

小西美樹：konimiki@dokkyomed.ac.jp オフィスアワー 水曜12:00～13:00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 講義資料は事前にLMSに掲載し、学生の学修状況を確認する。
- ・ 演習時は、与えられた課題に基づいて小グループでディスカッションを行い、各々の意見を交換し合う。
- ・ 講義内でLMS等を用いて学生の理解度を確認し、補足説明する。
- ・ 講義内で実施した課題やLMSに挙げられた質問について、講義内やLMSで回答・解説する。
- ・ 成績評価の結果は、「授業評価の回答および成績評価の講評」に記載しフィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間 *（ ）内は時間の目安

事前学修：事前に配布される講義資料に目を通し、発表の準備を行う、あるいはレポートを作成する（30-60分）。

事後学修：リフレクション（本日の講義を踏まえて考えたことや新たな疑問を記述したもの）、あるいは修正したレポート/プレゼンテーション資料をLMSにて提出する（30-60分）。

XII. コアカリ記号・番号

A-1, A-2